

令和3年度訪問型家庭教育支援推進事業第1回講座 概要

- 1 開催日時：令和3年12月3日（金）13:30~16:00
2 会場：日高川町農村環境改善センター
3 日程：(1)事例発表 (2)講演 (3)ワークショップ

(1)事例発表

「家庭教育支援チーム立ち上げと支援開始から1年」

九度山町教育委員会学校教育課課長補佐 東芝 美由紀 氏

本町の現状と課題

- 少子化、核家族化、両親共働き家庭の増加
- 家庭教育に関わる保護者の問題意識が低い
- 課を超えての情報共有が難しい...守秘義務
- 就学までは、保健師が保護者と信頼関係ができています
 - ・新生児訪問や乳幼児健診
- 就学前から学童期への支援のつながりが不十分
 - ・発達課題のある子どもの保護者に丁寧な就学相談ができていない
 - ・学童期以降、保健師が関わっていた家庭の子どもの様子がわかりにくい

教育委員会と福祉部局の連携が必要

目的

少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化により、家庭教育が困難になっている社会において、家庭教育支援の必要性が高まっている。本町において、教育部局と福祉部局が協働連携し、積極的かつきめ細やかな支援体制並びに相談体制の充実を図り、家庭教育支援を推進するために九度山町家庭教育サポートチームを設置する。また、チームは、町内の子ども及び町内の保育所・幼稚園・学校に通う子どもたちの健全育成を願い、支援の必要な0歳～18歳までの子どもをもつ家庭を切れ目なくサポートする。



教育委員会と福祉部局が連携した子育て支援・家庭教育支援の相談窓口 九度山町家庭教育サポートチーム設置(R2年6月)

- ◆当初、教育委員会と福祉部局のメンバー（5人）でスタート
 - ・保健師・児童福祉担当者・学校教育指導主事
 - ・スクールソーシャルワーカー・家庭教育支援担当者

※当初は、「九度山町家庭教育サポートチーム」と呼んでいたが文部科学省への登録の際、呼称を「きらら」とする。

「子どもたちの笑顔が、瞳が、未来が輝きますように」

「保護者が笑顔で子育てを楽しめますように」という願いを込めて

活動内容

- (1) 子育てに関する相談、就学に関する相談に対応し、必要に応じてケース会議を開く。
※ケースによっては、専門家を招いたり関係機関へつないだりする。
- (2) 訪問型家庭教育支援（家庭訪問・入学説明会などに出向く）を行い、支援の必要な子どもの実態を把握し、問題の発生予防、早期発見、早期支援ができるようにする。
- (3) 家庭教育に関する啓発活動や家庭教育情報誌を発行し、子育てに関する情報提供を行う。
- (4) 子育てや家庭教育に関する講座を開催する。
- (5) 学校と連携しながら、不登校児童・生徒やその家庭を支援する。

家庭教育支援チーム活動の始まり

- 校長会を通じて周知
 - ・学校から「個別相談のご案内」を配布してもらう
- 幼稚園・保育所・児童発達支援センターに周知
 - ・保健師と一緒に園児の様子を参観
⇒就学相談につなげる
- 町広報に掲載
- 個別相談（電話・保健師からの紹介）⇒ケース会議

(R2年8月)

- ◆ (県) 訪問型家庭教育支援推進事業シンポジウムに参加して
 - 家庭の孤立化を防ぎ、家庭教育にかかわる問題の発生予防や早期発見につなげる。
 - 切れ目のない支援の重要性
 - 保護者と同じ目線に立って寄り添うことの重要性
 - ユニバーサル型・ベルト型・ターゲット型の訪問支援
 - 保護者の集まる機会を利用 (就学時健康診断など)
 - 先進的な取り組みをしている他市町村に学ぶ
 - ・橋本市の家庭教育支援チーム「へスティア」
 - ・湯浅町の家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」
- ◆ 研修で学んだことをチーム員で共有
 - ⇒ **ベルト型の訪問事業**を計画

(R2年10月～3月)

- ◆ 各学校 (小学校1校・中学校2校) の入学説明会で、本町に家庭教育支援チームができたことを保護者に紹介
 - 子育てや家庭教育に関する情報提供
 - ・家庭教育に関するプリント・(県) 家庭教育サポートブック
 - ※来年度のベルト型家庭訪問についても告知 (小1・中1)
- ◆ 人材の確保⇒地域の人材
 - ・母子保健推進員・主任児童委員・元教員・元保育士
- ◆ 予算... 2/3は県の補助
- ◆ 要綱... 「九度山町家庭教育サポートチーム設置要綱」

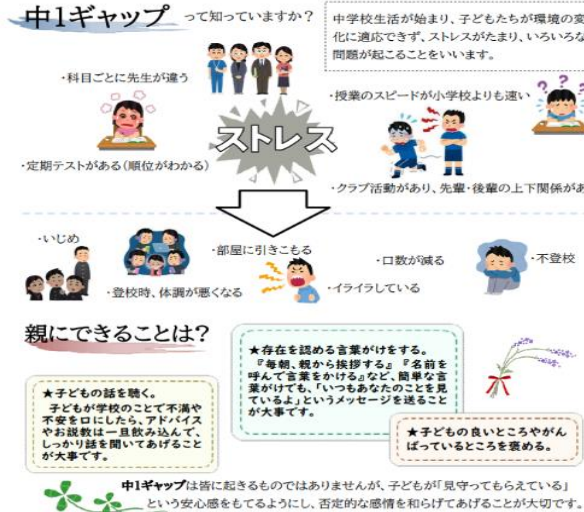
(R3年4月)

- ◆ ベルト型訪問事業に向けての会議 (チーム員25人)
 - ・家庭教育支援員に委嘱 (教育長より)
 - ・小1・中1家庭訪問先分担、確認
 - ・訪問の心得、守秘義務などについて確認
 - ・持ち物
 - 身分証・名刺・家庭教育情報誌「さなだっこ」
- ◎実施時期...5月下旬予定

令和3年度入学生保護者様
九度山町家庭教育サポートチーム

あと一月あまりで小学校の6か年の課程を終了する子どもたち、小学校生活の中でいろいろなことを学び、経験し、小学校卒業とともに中学校入学を心待ちにしていることと思います。保護者の皆様におかれましては、お子様の心身の成長を喜びとともに、思春期にさしかかり、子育ての難しさを感じる時期がもしもありません。

九度山町家庭教育サポートチームでは、子どもたちにとって環境の変化が大きいとされる「保育所・幼稚園から小学校へ(小学1年生)」「小学校から中学校へ(中学1年生)」を大事な時期と考え、その学年の全戸訪問をさせていただくことを計画しています。



2021 九度山町家庭教育情報誌

さなだっこ

きらら 第1号



さなだっこ第1号ではくどサポ「きらら」のメンバーや「九度山町子育て世代包括支援センター」について紹介していきます。

保護者が子育ての不安や悩みをかかえたまま、孤立することがないように『気軽に相談』できるのが、家庭教育サポートチームです。保護者や地域の方、みんなが笑顔の町づくりを目指し、地域・学校・行政が協力しながら子育てを応援できるようチーム一丸となって頑張ります。

(R3年5月)

- ◆ 家庭訪問の代わりとして、小1・中1家庭に電話
 - ・事前準備として、保護者への案内
 - ・個人記録
 - ・報告⇒必要に応じてケース会議

(R3年10月)

- ◆ 就学時健康診断 (入学説明会) でワークショップ
 - ・グループに分かれて保護者と懇談
 - ・家庭教育に関する資料

(R3年12月)

- ◆ 本年度2回目の小1・中1家庭への電話
- ◆ 子育て講演会 (12/12)



私たちがサポートします!!

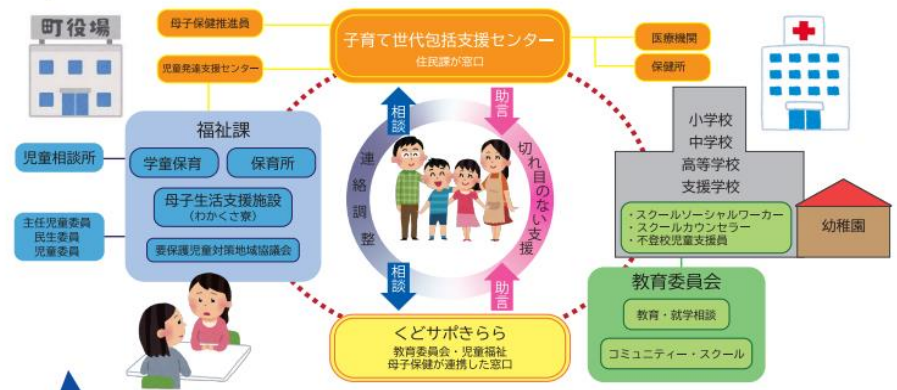
学校運営協議会委員・民生委員の経験を生かし、地域の子育てに微力ながら何かお手伝いできればと思っています。
辻居 恵美子

幼稚園在職中には、たくさんの子どもたち・保護者・地域の方々に出会い、皆様にいろいろ助けていただきました。微力ながら今度は、地域のお役に立てればなと思っています。
浦 美幸

子育て経験者や元学校、幼稚園の先生は心強いサポーターです。

小学校で動めていたときの経験を役立てられるといいな・・・一緒に悩んだり考えたりすることができたらと思います。
松島 千鶴

九度山町子育て支援連携図



九度山町子育て世代包括支援センター

妊娠前
妊娠中
産後
子育て期

- 風疹ワクチン接種費用の助成
- 不妊治療費助成
- 妊娠届出・母子健康手帳交付
- 妊婦健康診査受診補助券
- 妊産婦交流会（個別通知あり）
- 新生児・乳児・産婦訪問
- 乳幼児健診（3～4ヶ月・6～7ヶ月・1歳半・3歳）
- 離乳食指導（乳幼児健診時）
- 10ヶ月・12ヶ月・2歳児健康相談
- 歯科診察・保健指導（1歳半・3歳児健診時）
- 定期予防接種
- ひよこクラブ（未就園児の親子教室 月2回 ※要予約）
- 発達相談（発達相談員による個別の相談支援 ※要予約）

保健師が中心となり、妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない子育て支援を実施しています。



成果と課題

<成果>

- 家庭・教育・福祉が連携することで、早期発見、早期対応ができ、保護者が安心できる。
- 身近な地域に相談できる人がいることで、子育てについて気軽に話すことができる。

<課題>

- 保護者に家庭教育の重要性を知ってもらう。
- 学校との連携を大事にし、効果的な支援ができるようにする。
- チーム員の意識を高める。

これから訪問型家庭教育支援を始められる市町村の皆様へ

「今こそ、家庭教育支援大切！」
「教育と福祉の連携が不可欠！」
「つながりを大事に！」

(2)講演

「地域でつなぐ家庭教育支援～今必要とされている家庭教育とは～」

湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」代表 上田 さとみ 氏

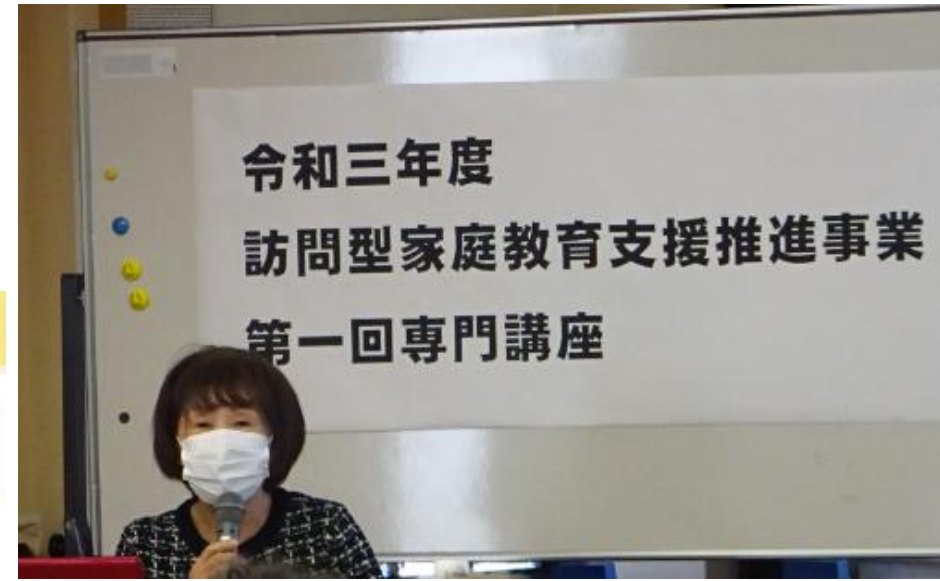
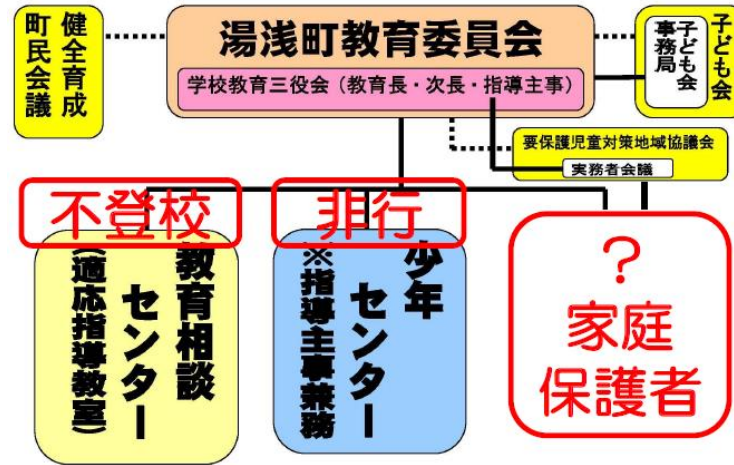
家庭教育力の低下とは？

子育てしにくい社会の中での家庭教育

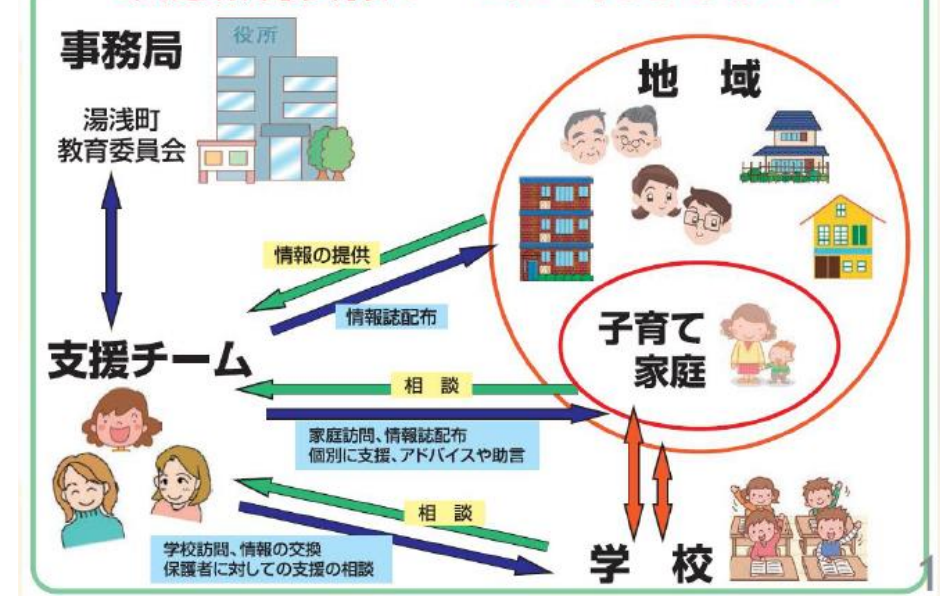
- ①社会・経済的格差の広がり（格差社会・学力格差）
- ②家庭の多様化（核家族化・ひとり親家庭・再婚…）
- ③親世代と子ども世代の価値観の接近・同等化
- ④高い人間関係の必要性（人間関係の私的化）
- ⑤情報化社会の中のコミュニケーションリスク
- ⑥孤立しやすい家庭（自分からSOSが出せない）

5

湯浅町：子どもや家庭への支援体制



家庭教育支援チームって何をやるの？



課題解決のために…①

◇H20 スクールソーシャルワーカーを配置

- 学校・教職員への相談対応支援
- 問題を抱えた児童生徒の保護者への直接支援
- 関係機関（福祉・医療・要対協等）との連携による支援



▲「根本的な解決につながりにくい」という課題に対してどうするか!?

課題解決のために…(2)

◇H21 訪問型家庭教育相談体制充実事業

- ・支援が必要な家庭へのアウトリーチ型支援として家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」立ち上げ
- ・SSWがチームリーダーとなる
- ・問題の未然防止、早期発見・早期対応

全戸訪問による支援

H27年度、利用者支援事業による教育と福祉（医療・介護・保健）との協働

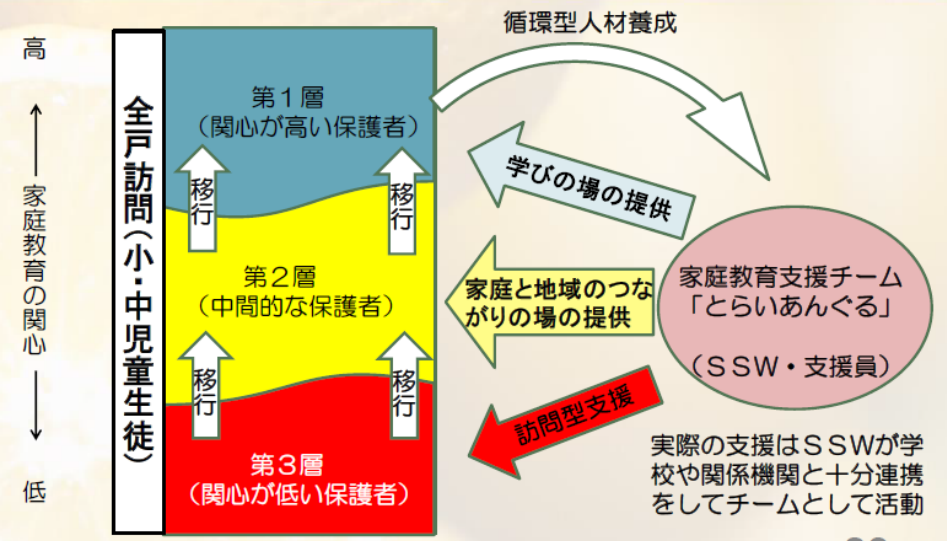
小中学校の児童生徒対象

0才児から義務教育終了まで対象に!

14

4

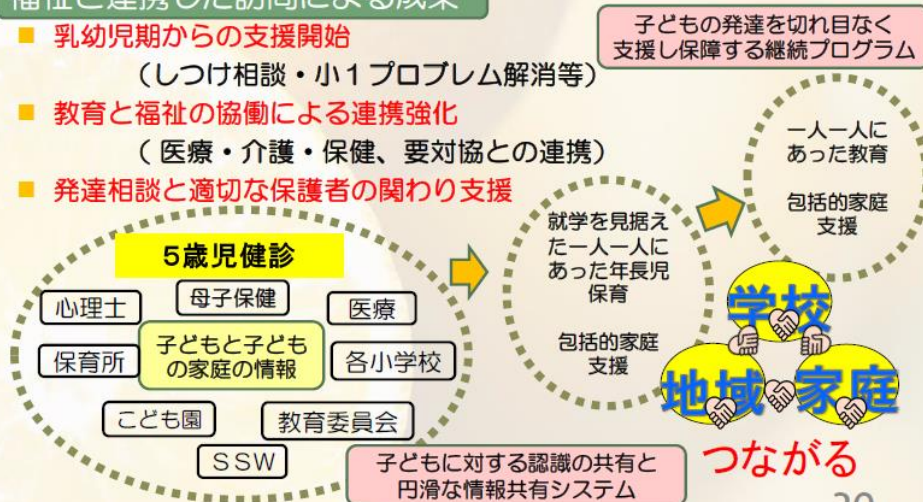
家庭教育支援チームのねらい



切れ目のない子育て支援

福祉と連携した訪問による成果

- 乳幼児期からの支援開始 (しつけ相談・小1プロブレム解消等)
- 教育と福祉の協働による連携強化 (医療・介護・保健、要対協との連携)
- 発達相談と適切な保護者の関わり支援



子育て・家庭教育の取り組みを通して訪問型家庭教育支援

全戸訪問による成果

- 全世帯の状況把握が可能 (早期発見・対応)
- 問題発生時の迅速な対応 (日頃のつながり有効)
- 気になる家庭への継続的な支援・見守り (意図的・計画的)
- 初回訪問の受け入れやすさ (全戸・情報誌)
- いつでも相談できる安心感 (定期的な訪問有効)
- 不信感などの解消 (学校等へのクレーム減少)

- ・ 支援が必要な家庭への支援を届ける
- ・ 第三者が対応することのメリットが大きい

地域のか 家庭支援の3つのキーワード

いつでも (時間や日にち関係なく)
どこでも (スーパーや出会った所が支援の始まり)
いつまでも (生まれたときから終わりなく)

気づく (見つける)

見守る (寄り添う)

繋げる (関係機関につなげる)

セーフティーネットから抜け落ちる家庭をアウトリーチで!!

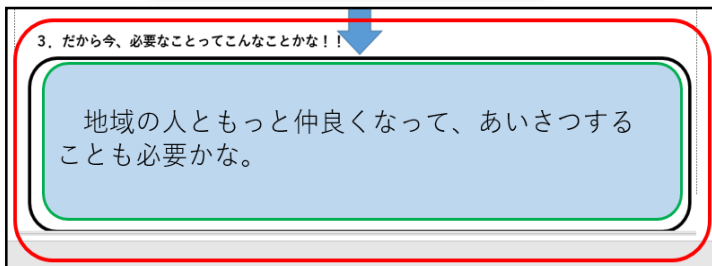
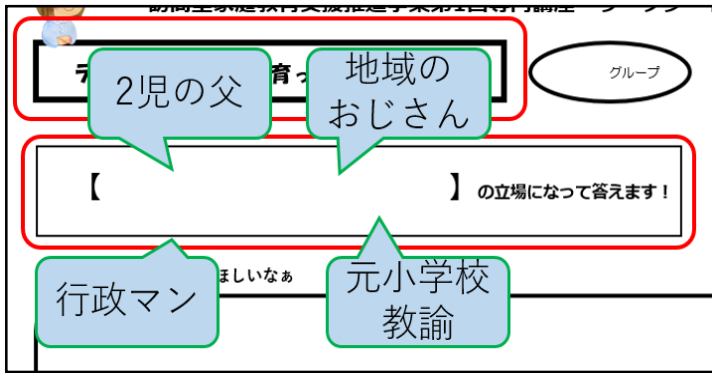


(3)ワークショップ

テーマ「こんな子に育ってほしいな！！」 ～〇〇の立場になって答えます！～

1. こんな子供になってほしいなあ
2. でもこんなこと気になっているんです・・・
3. だから今、必要なことってこんなことかな！

* 9つのグループに分かれて、1から3について協議しました



訪問型家庭教育支援推進事業第1回専門講座 ワークシート

テーマ こんな子に育ってほしいな！！

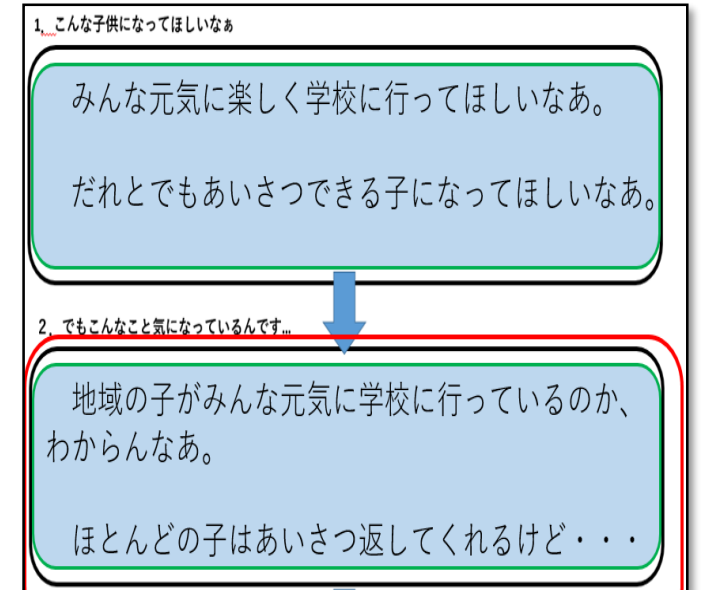
【 】の立場になって答えます！

1. こんな子供になってほしいなあ

2. でもこんなこと気になっているんです...

3. だから今、必要なことってこんなことかな！

市町() 役職()



参加者の声

・本町のサポートチームに取り入れ、チームで話し合いながら、今後、保護者の方々が安心して家庭教育ができるようにサポートしていきたいと思います。

・必要と思われる家庭とつながることの難しさ。でも、今日の「とらいあんぐる」さんのお話から、相談できなくても良い。話せばOK。ここから、これから何かスタートできるのではないかと思いました。

・家庭教育支援チームがどのように発足するのか、知りたかったので「きらら」のお話はとても参考になりました。上田さんのお話は、これからチームを作っていくにあたり、どのようなことに気を付けるのか、どのようなことが大切なのかを学ぶことができました。

・個で対応することには限界がある。チームとして取り組む体制を作る必要がある。長期にわたる実践から得られた報告に大変感銘を受けました。

家庭、特に悩みを抱えている（または、悩みがあることに気づかない）母親のフォローが必要だと考えている。

・子供は親の意見や考え方に左右され育っていく、その為親の考え方等が間違っている場合、その考え方も引き継いでいくと思う。だから、家庭教育支援はとても大切だと思います。

・訪問型家庭支援とそのシステムを確立するためには、SSWの人物が要になってくるようである。その人材次第で成功するか失敗するかが決まりそうであると感じました。

・教育委員会と福祉部局との連携の必要性がよく分かった。

・訪問したい家庭（福祉の面で）があるがきっかけがつかめないでいます。このような取組があれば、前向きに取り組めると思っています。

・教育と福祉の連携というお話が皆さんから、その重要性をあげられていてやはり、子育てには切っても切れないということだと実感しています。

又、何もないうちからつながっているというお話を聞き、支援する側からアプローチしていく大事さを感じました。

・不登校解消に向けて、お力を貸していただきたいな。

・学校として立ち入ることの難しい家庭のことなどに、第三者が入っていただければ心強い。また、学校への不満に対して、クッションの役目をしていただければ非常にありがたい。

・学校の取組だけでは解決しにくいことも多く、このチームが立ち上がることを期待しています。

・支援チームの役割や活動について知ることができました。校区にも訪問いただければいいなと思いました。

・立ち上げから、現在の取り組みまで、詳しく聞くことができ良かったです。

・全戸訪問が必要と思った。

